

第42回ITER 機構職員募集説明会でのQ&A

1. 日時・場所

平成22年10月23日(土) 11:00~15:00
原子力機構那珂核融合研究所 ITER 棟玄関ロビー

2. 来訪者:9名

3. 説明概要:

H22年度的那珂研施設公開にあわせて、来訪者に資料を配布し、核融合やITERについて説明するとともに、ITER機構職員募集および登録の案内を行った。(ITER協力調整グループ 安東 SGL)

4. 主なQ&A

Q:ITER機構の拠点は日本にはないのですか？

A:ITER機構は、ITERを建設し運転するために設立された国際機関です。ITERは南仏プロバンスのカダラッシュに建設され、そこにITER機構の本部があります。最寄りの国際空港はマルセイユ・プロバンス空港です。マルセイユ・プロバンス空港からカダラッシュまでは70 kmほどあり、車で約1 時間程度かかります。ITER機構の職員になると、カダラッシュにおいて業務を行います。日本にはITER機構の拠点はありません。原子力機構は、ITERプロジェクトにおける日本の国内機関として日本国政府から指名を受け、日本が分担する物納機器の調達やITER機構職員応募に関する支援を行っています。ITER機構と原子力機構は別の組織になります。

Q:現在、ITER機構の日本人専門職員はどのような部門の仕事をしていますか？また、年齢層はどうなっていますか。

A: 2010年10月はじめて、日本人の専門職員は24名+採用内定者が1名となっています。また、支援職員は7名います。部門別にみると、以下のようになります。

部門	専門職員	支援職員
機構長オフィス(機構長を含む)	3	0
プロジェクト管理・技術統合	5	3
トカマク装置	5	1
プラズマ運転	4	1
プラント設備	3	0
制御・加熱	3	1
品質保証	1	0
建屋関係	1	0
管理部門	0	1

また、年齢層をみると、40代が最も多く全体の5割程度を占め、次いで50代及び30代以下がそれ

ぞれ2割程度、60代が1割程度となっています。

なお、ITER機構の職員の総数は、専門職員が296名、支援職員が167名、合計463名で、日本国籍の方の割合は、専門職員が8%程度、支援職員が4%程度、全体で7%程度となっています。原子力機構では、もっと多くの方がITER機構で働けるよう、支援を行っております。

Q:ITER 機構職員に応募するとき、核融合に関する職務経験は必要でしょうか。

A: ITER 機構が募集するポストは、核融合に関する職務経験がある研究者・技術者ばかりでなく、機械系、電気系の技術者、プラント建設の経験を有する技術者、国際プロジェクトの経験者など、幅広く人材を求めています。また、人事や財務、契約などの事務系の職員も募集しています。

Q:ITER 機構職員の募集や応募方法について具体的に教えて下さい。また、面接はどのように行われるのですか？

A: ITER 機構の職員募集は、不定期に ITER 機構のホームページに掲載されます (<http://www.iter.org/jobs>)。このホームページ上で、現在募集中のポストやその職務に関する情報(Job Details)、募集のプロセスに関する説明などを見ることができます。募集されたポストの職務に求められる要件とご自分の経歴などを照らし合わせたうえで、応募をご判断いただきます。また、応募にあたり、同ホームページ上で、所定のフォームにご自分の情報を入力し、ITER 機構へ送信すれば手続きは完了します。

応募後、ITER 機構による書類審査に合格すると、次に ITER 機構が行う面接による審査を受けます。面接は、ITER 機構の複数の面接者とテレビ会議システムを用いて面接することになります。テレビ会議で面接を行うのは、世界中のどこからでも平等な条件で面接を受けられるようにするためです。

この面接審査に対する支援として、原子力機構が実施している登録制に加入していただきますと、模擬面接ビデオを閲覧することもできます。また面接審査の対象の方の希望により、面接のトレーニングも行っています。登録制への加入方法については、下記の URL をご覧ください。

http://naka-www.jaea.go.jp/ITER/recruit/boshu_midashi1_information_system.html



H22 年度那珂研施設公開における ITER 機構職員募集説明会の様子